

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立南川副小学校
1 前年度 評価結果の概要	様々な課題解決や教育活動推進に向けて、それぞれの担当を中心に組織で進めることができた。これまでの取組を継続しつつ、次の重点をもって取組を進めていく。 ・学力向上については、継続として課題の残る結果だった。引き続き全学年や個の水準に引き越えることを目標とし、教職員の指導力向上を図ると共に、家庭学習の仕方やタブレットの有効活用について見直しを進め、学力の向上に努める。 ・児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、自立活動の計画や個別の指導計画の作成等を行う。困り感を持った児童を早期に発見し、手立てを講じるためにも、コーディネーターを中心に組織的に対応していく。保護者への理解や関係機関との連携も充実させる必要がある。 ・長期にわたる不登校児童への対応を中心に、校内でのケース会議や必要に応じて関係機関と連携したチームでの対応を行う。また、にこここアンケートや教育相談機関等を通して、未然防止にも努める。全校的に、相手のことを考えて行動する児童を育てる取組を進めていく。
2 学校教育目標	自分を磨く子どもの育成 ～自ら学び 心豊かに たくましく 生きる南っ子～
3 本年度の重点目標	【確かな学力を磨く】 (1)「主体的・対話的で深い学び」へ(2)指導力の向上(3)時代が求める課題への対応 【豊かで多様な感性を磨く】(1)豊かな心と多面的考え方の育成 (2)特別支援教育の充実(3)特別活動 【健やかでたくましい心身を磨く】(1)健やかな体とたくましい心づくり(2)安全・防災教育(3)生徒指導・児童理解

4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
		重点取組	具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●南川副小型授業を取り入れた、思考・判断・表現の能力を伸ばすための学習指導法の工夫	●学習の場において、自分の思いや考えを正しく伝えることができる児童80%以上	●南川副型授業において、導入の工夫や問題解決の見通しも持たせることで、自分の思いや考えを言葉や記述で表現させる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを実施し、(生命尊重、親切・思いやり、規律の尊重、善悪の判断など)肯定的な回答80%以上 ○人権・同和教育の視点を常に持ち、日常の指導において、仲間作り及び望ましい集団づくりに努めている教職員を85%以上	・QUテストを6月に実施し、校内研修を夏期休業に実施する。 ・毎週木曜日を道徳教育の日として人権教育や道徳の充実を図る。 ・ふれあい道徳での授業実践を学校通信を通じて家庭に知らせ連携を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ問題には、必ず、管理職を交えた組織で対応する。「組織で対応している。」と回答をした職員100%	・毎月のにこここアンケートで、児童の気になる言動や様子を把握し、毎月の連携会議でそれらを職員間で共有することにより、管理職を含めた組織として早期対応を行う。 ・認知した事案については、指導や謝罪が済んだ後、複数の職員で一定期間(3か月以上)見守り、解消させる。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・道徳科や学級活動、総合的な学習の時間において、キャリアパスポートを活用する。将来の夢やそのための手立てを書いたカードを常時掲示し、毎月第4木曜日に自己評価をする機会を設ける。
●健康・体づくり	○不登校の未然防止	○「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と思うことができる児童を85%以上	・にこここアンケートを毎月実施し、児童の実態を把握する。その上で、児童への関心を高め、授業や行事との連携を図る。 ・欠席日数が多くなってきた児童について、適宜、関係職員でケース会議を開き、児童の実態を把握し、教職員と関係機関で共通理解と連携を図る。
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で210分以上の児童を75%以上	・スポーツチャレンジに関するイベントを保健体育委員会で企画し、全校児童でスポーツに取り組む機会を設ける。 ・学年ごとに外遊び推進曜日を設定し、運動への興味・関心を高める。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい食習慣の形成	○給食を残さず食べることができる児童を90%以上	・給食の様子から各学級で課題を挙げ、その解決策を児童と考える食育の授業を学活や家庭科等でを行い、日々の給食指導と連携して解決に向けて取り組む。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・出勤後にその日の帰宅時刻を設定し、計画的に業務に取り組む。 ・毎週金曜日の定時退勤日や学期末特別校時を設ける。 ・PCでの校内連絡掲示板を活用し、職員間での伝達の効率化を図る。 ・長期休業中など、年次休暇取得促進日を設定する。
●特別支援教育の充実	○教職員自らの働き方の改革と心身の健康保持への意識の向上	○学校評価及びストレスチェックなどのアンケートで、「積極的な協力体制ができている」「働きやすい職場の雰囲気がある」について肯定的な回答を93%以上	・3部会の中で、部長を中心として協力体制を確立させる。 ・生活指導、教育相談に係る諸問題の解決に、チームで取り組み、負担感の軽減を図る。 ・毎週金曜日に情報交換の時間を設定する。
	○特別支援教育の更なる推進	○学校評価(保護者アンケート)で、特別支援教育の取組に対する保護者の理解度を90%以上にする。 ○外部講師を招請し、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方並びに連携づくり等について研修会を1回以上行う。	・新入生説明会やPTA部会、月に1回実行する特別支援教育に関する通信等で保護者や地域への理解を図る。 ・校内支援会議で、全職員の共通理解を図り、指導・支援を行う。 ・道徳相談を活用し、困り感を持った児童の早期発見や効果的な支援の在り方を学ぶ機会を設ける。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
		重点取組	具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○ICT活用推進	○ICT活用推進	○授業や家庭学習で学習用タブレットを活用することができたと感じる児童が80%以上	・一人一台端末の活用について、長期休業中に一度スキルアップを図る研修を実施する。 ・タブレットを持ち帰り、家庭学習の充実を図る。
○教職員の資質向上	○教職員の資質向上	○服務規律違反を0(ゼロ)にする。 ○職員アンケートにおいて、「指導方法の改善に努め、授業力が向上した」と回答した割合を90%以上	・服務規律、教職員としてのマナー等について講師を招請し、研修会を行う。 ・月に1回「ゼロの日」の取組。 ・校内研究を核とした授業公開、相互授業参観を実施することで、授業力向上を図る。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育			
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・		